

## 工場会計リテラシー講座「財務4表と生産哲学」

平成30年11月  
ソートウェア株式会社  
代表取締役 原 秀樹

### ①講座の目的、企画意図

本講座は、「経営の視点をもって業務を遂行できる人の育成」、その入り口のひとつとすることを目的として企画いたしました。

会社業績は財務諸表として表されるものであり、その意味、構造の基本を理解することは、自身の担当業務の目的、意味、やり方を業績向上とのつながりで、より高い視点、広い視野で再確認するきっかけになるものと考えます。

また、一般担当者から(特に製造部門において)、「自分たちの改善活動は経営とどうつながっているのか?」「改善成果は財務諸表のどこにでるのか?」との疑問の声を聞くことがあります。

仮にこのような状態であるとするれば、その疑問をクリアにすることは、改善活動のスピード及び正確性の向上、ひいては改善成果の向上の必要条件であると言えます。

本講座ではこうした問題意識から単に財務4表の教科書的な説明にとどまらず、製造業が業績向上を目的としてもつべき方針、信念を「生産哲学」と称し、それについて考えます。

講座では、「生産哲学」を、「必要なタイミングで必要な量だけつくる」とし、

- ・なぜこれを「生産哲学」とするのか
- ・この哲学をもって生産活動を改善すると財務4表のどこがどうなるのか

を受講者とともに考え、解説します。

- ・「生産哲学」を自社で実行しようとした場合にどうなるのか、
- ・どのような応用が必要なのか、何が課題となるのか、
- ・今すぐできることは何なのか、計画的に取り組むことは何なのか、
- ・自分はそれに対し何をすべきか、

こうした点について受講者の考える力を引き出すためにも、本講座の開催をお願いしたいと存じます。

### ②対象者

初級社員、中堅社員(20代~30代)  
経理部門を除く全部門(開発、製造、営業・・・)

経理部門、経営職層(管理職)にも今一度、基本を確認する意味で効果的です。

### ③講座内容、進め方

5人以下の少人数で行います。  
異なる部門でメンバー選定していただくことを推奨します。

#### 第一部 財務4表とは

- ・ 貸借対照表
- ・ 損益計算書
- ・ キャッシュフロー計算書
- ・ 製造原価報告書

各表の意味、4表の構造(数字のつながり)を解説したうえで、演習によって実際に4表を作成することで理解を深めます。

演習は、設問毎に全員正解のうえ、次の設問に進む方式で行います。

その際には、教え合い(助け合い)を推奨します。

これまで作成されたものを見ているだけの人(財務4表を理解している人)も、実際に作成することによって新たな知識、気づきが得られます。

#### 第二部 生産哲学と財務4表

会社は将来にわたって存続するため、「儲け続ける」必要があります。

では、儲かるとは財務4表のどこがどうなることなのか、そのためにはどのような生産活動であるべきなのかを出席者の考える時間をとりながら解説していきます。

#### ポイント

- ・ 必要な量だけつくる(全数良品)
- ・ 必要なときにつくる(必要なタイミングでつくる。早すぎても遅すぎてもいけない)
- ・ ボトルネックに改善を集中する
- ・ 製品1個あたりの原価と売価で考えてはいけない
- ・ 固定費をフルに活用する(売上の増加になるべく固定費を増やさないで対応する。そのためには・・・、人は多能工化、設備は汎用化など)
- ・ 受注企画(事業計画)時に、新製品、既存製品、やめる製品を考慮して固定費の製品配分(業績シミュレーション)を考える
- ・ 他社の公開財務データのトレンドから資金の流れ(循環)を考える
- ・ 自社の過去の財務データ(売上高、売上原価、販管費、棚卸資産)のトレンドを見る

以上

【本件に関する問い合わせは下記まで】

#### ソフトウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室  
Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759 担当 三井 江利子 E-Mail mitsui@tw-kk.com